原水爆禁止 2020 年世界大会へのメッセージ
（令和２年８月２日（日）～９日（日），オンライン開催）

核兵器廃絶・世界平和を願い，活動を続けておられる皆様方に対し，心から敬意を表し，原水爆禁止 2020 年世界大会のオンライン開催に際し，メッセージをお送りいたします。

1945（昭和20）年８月６日午前８時15分の広島，８月９日午前11時２分の長崎に起きたあの忌まわしい出来事から，今年で75回目の夏を迎えました。いまや「ヒバクシャ」という言葉は，ユニバーサルランゲージとして世界中で認識されるようになりました。ここには，「二度と同じ苦しみを他の誰にも味わわせたくない」という広島・長崎のヒバクシャの切なる想いが汲まれていると感じます。

今年３月31日現在，生存する被爆者数は136,682人，その平均年齢は83.31歳と，原爆の記憶を生で語られる被爆者は年々少なくなっています。しかし，生存する被爆者がたとえ一人もいなくなったとしても，75年前に起きたあの非人道的行為によって多くの命が犠牲となった事実は決して消えることはありません。この事実をわたしたち一人一人が胸に刻み，声を上げて平和の大切さを訴え続けることこそが，唯一の戦争被爆国であるこの国に生きるわたしたちの責務です。

世界はいま，新型コロナウイルスという新たな脅威に直面しています。こんなときだからこそ，核兵器の脅威によって世界を危険にさらす核抑止政策に頼らず，心を一つにして核兵器廃絶に向けて進むべきだと考えます。

高知市では，全ての核兵器廃絶を訴え，1984 年に「非核平和都市宣言決議」を行いました。また 1989 年には８月６日を「高知市平和の日」

と制定する決議を行い，毎年８月には「高知市平和の日」記念事業を実施しています。今年度も引き続き，平和事業を通して，多くの市民の方々と共に，いのちの尊さ，平和を守ることの大切さについて考える契機となるよう取り組みたいと思います。

結びにあたり，一日も早い核兵器禁止条約の発効と，その先にある核兵器廃絶を願いまして，私からのメッセージといたします。

高知市長　　岡　﨑　誠　也

メッセージ

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が困難な状況のなかで、『原水爆禁止2020年世界大会（オンライン）』のご成功を心からお祝い申し上げます。また、参加されている皆様に、深く敬意を表しますとともに、心からエールをお送りします。

本年、2020年は原爆投下から75年の節目の年にあたります。この間、広島、長崎の街並みは復興を遂げましたが、現在もまだ多くの方々に身体的、精神的に苦しみを残しつづけております。

世界は、国際化・情報化等の急速な進展に伴って、国境や人種、言語の壁が次第に取り払われ、世界人類の友好と親善の輪は着実に広がりつつあります。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が深刻化する中、国連が戦闘でなくウイルスとの戦いを優先すべきだとして停戦を呼びかけたにもかかわらず、その後も世界の各地で紛争が繰り返され、核兵器の恐怖は依然として払拭されていません。

人類最初の原爆被災国である私たちは、悲惨な戦禍の証言者として、その体験を後世に語り継ぎ、人類の未来のため、市民の平和な生活を守るため、核兵器の廃絶と平和の尊さを世界に訴えていかねばなりません。

この世界大会に参加された皆様の熱い願いが、大きな潮流となって、世界の人々の胸に世界平和への希望の灯をともし、核のない日が一日も早く訪れることを強く念願いたします。

令和２年８月６日

高知県安芸市長　横山幾夫